

第3日目(7/17) 現地2日目 午前震災遺構伝承館・午後はまわらす vol2

※訪問先情報はvol1 をご覧ください。



昼食後：楽しそうです



ビーチのごみを拾います



いろんなゴミが落ちています



ハンゲルが書かれたゴミも

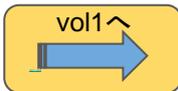


枕も流れ着いています



ビニールのごみが多い・・・

生徒たちのふりかえり(vo2)



3年坂本

今日は陸前高田にある伝承館へ行き、その後、浜辺でゴミ拾いをしました。伝承館では、震災や津波について、逃げる・助ける・支えるの3つに分けてそれぞれ違う視点から視ることができました。特に、津波が来た年の地層が歴史順に並んでいるブースがあり、津波が来たときは砂など細かい堆積物がたくさん地層に混ざっていることが分かりやすく学べて、とても勉強になりました。浜辺でのビーチクリーニングは、自分の思っている3倍ほどの量のプラスチックがあり、とても驚きました。しかし、クリーニング後は見違えるように浜辺も綺麗になり、とても嬉しかったです。

2年山本

普段休日は遅くに起きてしっかりと朝ごはんを食べていなかったのですが、平日と同じように起きて食べる朝ごはんが新鮮だった。1日中体が普段よりよく動いたので、規則正しい生活を送ることの大切さを身をもって知れた。

バスに乗り、岩手にある伝承館へ向かった。2日目に行った伝承館では人が直接語り、実際に被害に遭った建物を周ることで臨場感のある体験が出来たが、今回の伝承館では資料や映像が主で、客観的に地震の被害を知ることが出来た。資料を見て、震災前まで災害による被害が拡大することを防ぐために水門が存在するのにその開閉が手動だったことに驚いた。

案内して頂いた方の、「約二万二千という数字は、ただの数字ではありません。そこにあった命の数です。」という言葉が1番印象に残った。特にこの伝承館では資料を数字的に見て震災について学んでいたもので、さっきまで見ていた数字がとたんに重く感じ、資料の見方が変わった。客観的に資料を読むことは正しく資料を読み取る為に必要なことだが、実際にその被害に遭った方々の気持ちを汲み取ろうとする心を忘れないことが重要だと学べた。

伝承館を出て一本松を見た後、浜ワラスの方々と一緒に海辺のゴミ拾いを行った。私は燃えるゴミを中心に集めたが、プラスチックゴミが殆どで、あまり燃えるゴミは見当たらなかった。枕を拾ったという班がいて驚いたが、震災で衣類や生活用品も海に流されてしまったという説明を受けて納得した。津波は陸で人間にばかり被害を与えているものだと思うので、海の生物や環境にも悪影響を与えているとは思わなかった。1人がやるだけでは些細なことかもしれないが、やはり普段からゴミを不法投棄しない、ゴミ拾いをするなどの活動を重ね続けることが一番の改善策なのだと思う。

また、私は以前美術部の作品展でマイクロプラスチックや海の水質汚染についての警鐘を打つデザイン作品を多く見かけた。そのときはそんなものがあるんだ、改善しなくてはとは思いつつそこまで関心を抱けなかったが、今回ゴミ拾いを行ったことで事態が自分の想像以上に深刻なことを知った。百聞は一見にしかずというが、実際に自分の目で確かめてみなければものごとはよく分からないという良い例だと感じた。

